自治医科大学
小児科
JICHI MEDICAL UNIVERSITY
Department of Pediatrics
JICHI CHILDREN'S MEDICAL CENTER TOCHIGI
とちぎ子ども医療センター

小児科主任教授　小坂仁先生から

小児科医を目指す皆さんへ

私たちの診療は、自治医科大学 とちぎ子ども医療センター・総合母子周産期センターで行っています。このセンターは栃木県の支援のもと、自治医科大学附属病院に併設された施設であり、栃木県全域に加えて茨城・群馬・埼玉にまたがる地域の小児医療を担う高度医療機関です。小児病院としての機能と大学講座としての機能を兼ね備え、すべての小児診療領域に対応できる体制を整えています。欧米では標準的である“大学併設型小児医療センター”の形をとり、子どもたちに最良の医療を提供できる環境が整っています。

当科の特徴を4つ挙げます。

①最先端の治療・研究が可能であること

小児ECMO管理、不整脈に対するカテーテル治療、小児ダブルバルーン内視鏡治療、腎・肝移植など、成人科と連携した高度医療・臨床研究を行うことが可能です。全員参加による新生児・内科系入院のカンファレンスを毎日行っており、その場で専門家の意見を得ることができ、幅広い知識の獲得につながります。小児麻酔科医と小児循環器専門医によるPICU（小児集中治療室）も整備され、外科各科の医師も全国より選ばれています。

また、自治医大の基礎医学教室には治療法開発をテーマとする研究室が多く、連携しやすい校風が特長です。このような環境のもとで、遺伝子治療という本学を代表する研究分野については、基礎から治験まで一貫して取り組むことが可能です。研究費や機材も、必要なものはすべて整っています。

②子どもの総合診療医を目指せること

専門医として深い知識を持つことはもちろん重要ですが、患者や家族の視点からは、「全体を見てほしい」という思いが常にあります。たとえば結節性硬化症という病気では、心臓腫瘍、てんかん、発達障害、脳腫瘍、顔面血管線維腫、腎腫瘍など多岐にわたる症状が見られます。しかし、多くの子どもにとって最も重要なのは皮膚病変であり、親御さんの心配はてんかんや発達障害、遺伝に関わる自身の問題、学校での友人関係、そして将来の見通しなど多方面に及びます。これらすべてが、私たち小児科医の課題です。どのような専門領域を持っていても、総合診療外来を担当し、小児の総合診療医を目指す姿勢を大切にしています。そのことに誇りを持っています。

③自分自身の生活を大切にできること

私たち自身の家庭や地域とのつながりを大切にしながら、多面的に子どもたちを支援できることを目指しています。医療以外にも多様な科学領域や分野の友人とつながり、子どもや若い家族の支援ネットワークを形成することを重視します。小児科医としての人生は長く、焦らず、過度な競争から距離を置き、キャリアの中で「今、自分にできること」を見つめていく姿勢を大切にしています。全国各地から多様な背景を持つ仲間が集まっており、子どもたちの心を支える前に、まず私たちが“楽しく”仕事をすることを大切にしています。

④子どもたちの将来に貢献できること

小児科医は、生涯にわたり子どもたちと関わることができ、開業医・勤務医・教育職・研究職と、どの道を選んでも心から満足できる人生を送ることが可能です。責任の重さは言うまでもありませんが、学ぶ姿勢を失わず、一生学び続けられる環境に身を置くことで、冷静な判断力を養うことができます。

小児科に関心のある方はもちろん、医療情報開発（僻地医療支援など）、母子医療政策、日本の強みを生かした医療研究（トランスレーショナルリサーチなど）に意欲を持つ方、さらにはきょうだい児支援や医療DXの推進といった新しい社会的課題に取り組みたい方の入局も歓迎します。教育的な指導は丁寧に行いますが、細かな指示は控えますので、自らの将来像を自由に描いてください。皆さんの多様な希望と可能性に応えられる環境を整えています。

子どもたちが活躍できる日本の未来のために、共に力を合わせましょう。

▣ 教授紹介

河野由美教授
鳥取大学卒
専門：新生児

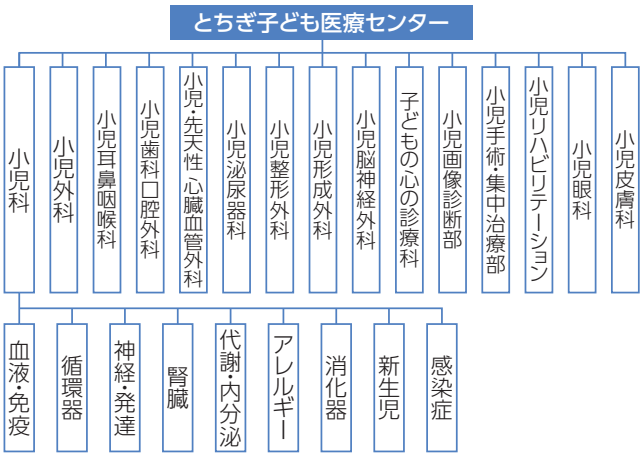
田島敏広教授
北海道大学卒
専門：代謝・内分泌

熊谷秀規教授
自治医大卒
専門:消化器･アレルギー

嶋田明教授
鳥取大学卒
専門:血液･腫瘍

村松一洋教授
群馬大学卒
専門:神経

▣ 当施設の特徴



小児科の中でも各分野の専門医がおり、質の高い医療を提供するように努めています。
また、センター内に小児医療における外科系を含む各科が集まっているため、小児科は家族・患者の窓口となり、最適な診療科への橋渡しをする役割もあります。

▣ 診療体制

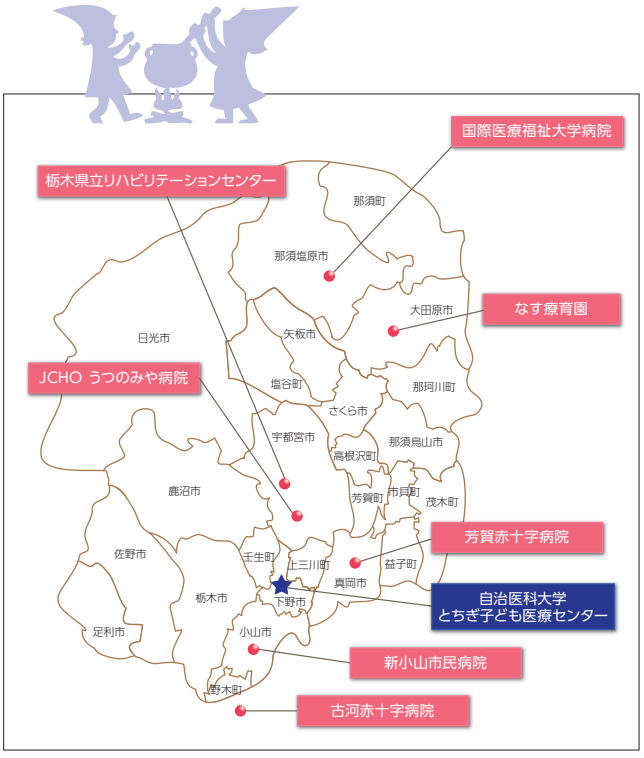
各チーム3～5人+研修医1～2人の体制で、チーム全体で10～15人程度の担当患者を診察します。毎日チーム内でカンファレンスを行い、症例の共有、ディスカッションをしており、チームカンファレンスを通して疾患の知識が付くだけでなく、プレゼンテーションの技術も身につきます。チーム内で症例の相談ができ、チーム全体で様々な疾患の方針決定を行うため、多岐に渡る疾患を学ぶことができます。手技や処置もチーム内で協力して行うため、研修医の段階から多くの手技を経験できる環境が整っています。
休日は、チーム内からの2、3人ずつの当番制で診療を行うため、診療から離れてしっかりと休息を取ることができる日をもつことができます。

▣ 当直体制

当科の当直は3人体制(①専攻医、②初期研修医、③指導医)で救急外来や入院患者の対応を行います。
当院は大学病院でありながらも一次救急から三次救急までの診療を行っており、walk in症例、救急搬送、他院からの転院搬送など様々な救急患者が受診するため、common diseaseから希少疾患まで診ることができます。また外科疾患のfirst touchをすることもできます。
問診や診察、検査、治療などを先輩医師とともに経験し、勉強する事ができる絶好の環境です。
当直の頻度は一ヶ月間に3～5回くらいです。落ち着いている当直もあれば、忙しい当直のときもありますが、当直翌日は午前中の業務終了後に帰宅できます。

▣ 関連施設

関連施設は栃木県内に 6 施設、茨城県内に 1 施設あります。すべての施設は、子ども医療センターと互いに密に協力し合い、総合的な小児科診療を提供します。一部の関連施設は、後期研修医の研修の場として重要な役割を果たします。



▣ 子ども医療センター　各フロア紹介

設備概要

子ども医療センターの建物は、地上４階、地下１階建てです。附属病院の本館・新館とは、地下通路及び３階の渡り廊下で接続しております。

子ども医療センター

4階　4A病棟：36床(小児科・慢性期)、おおるり分教室、クリエィティブ室
3階　3A病棟：36床(外科系)、PICU：8床、手術室
2階　2A病棟：36床(小児科・急性期)、2B病棟：15床(こころの診療科)
1階　外来、検査、小児画像診断部、リハビリ室、ボランティア室

自治医科大学附属病院

本館3階　NICU：15床、GCU：19床

1 階：外来、検査室

■主な小児科外来：総合診療、新生児、1か月健診、循環器、代謝・内分泌、神経、遺伝、腎臓、消化器、血液、免疫、アレルギー、感染、心理

小児画像診断部

入院患者の画像検査を小児放射線科医が読影し、週２回カンファレンス形式で担当医と情報交換しています。
小児期特有の画像所見を臨床に即して分かりやすく説明してもらえるので、非常に勉強になります。

松木 充 教授

小児画像診断部では、患者の状態・年齢に応じて最短で最適な検査を提供し、診断するよう努めています。毎週、小児科や各外科系とカンファレンスを設け、ディスカッションし、各分野の知識を深め、かつ横断的視野を重視しています。われわれは依頼医とともに幅広い疾患の中から鑑別を絞る過程を大切にしているため、画像等で疑問があればお気軽に読影室にいらして下さい。

2A：急性期病棟

■主な疾患

全ての急性疾患
呼吸器疾患（気管支喘息、肺炎など）
腎疾患（ネフローゼ症候群、腎不全、腎移植など）
神経疾患（けいれん、脳炎、髄膜炎など）
消化器疾患（胃腸炎、炎症性腸疾患など）
感染症疾患（重症感染症など）

2B：心の診療科

■適応障害、心身症、摂食障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、気分障害、統合失調症など、あらゆる小児期精神疾患を扱っています。

3A：外科病棟

■主科：小児外科、小児心臓血管外科、小児脳神経外科、小児泌尿器科、小児耳鼻咽喉科、小児整形外科、小児形成外科、移植外科、小児口腔外科、小児眼科、小児皮膚科

PICU・小児手術・集中治療部

手術部門は、先天性心疾患の手術や一般的な外科手術に対応できるように設計され、小児・先天性心臓血管外科、小児外科、小児泌尿器科、小児整形外科の手術を行っています。小児集中治療部門は、術後管理をはじめ関連する診療科と連携して集中治療をしています。

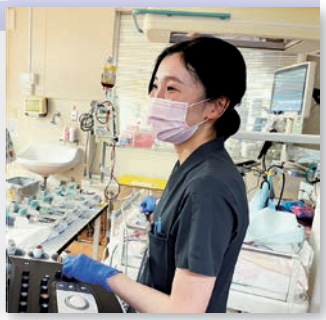
PICU 病棟医長　永野達也

当PICUでは、先天性心疾患患者の周術期管理をはじめとして、合併症を持つ患児の外科手術後の管理や、痙攣重積発作などの内科的重症疾患患児の全身管理を担当し、危機的な状況に陥ってしまった子どもたちの最後の砦となるように関連各科と連携して、スタッフ一同日夜努力しています。重症の子どもたちの全身管理を勉強し身につけることは、日々の診療の強力な支えになると確信しています。**2019年より小児科後期研修医がPICUでの研修をはじめました。**1人でも多くの子どもたちを助けるため、また自分自身のスキルアップのために、小児集中治療の道に進まれる方々が増えてくれることを期待しております。

4A：慢性期病棟

■主な疾患

慢性疾患や在宅移行調整など
血液疾患、膠原病、固形腫瘍
循環器（先天性心疾患、不整脈など）
代謝・内分泌疾患（糖尿病など）
難治性てんかんなど



NICU（総合周産期母子医療センター内）

■主な疾患

精査・治療を要する新生児疾患、早産児
低出生体重児、新生児仮死、染色体異常症
先天性心疾患、小児外科疾患
口唇裂・口蓋裂、二分脊椎
など

▣ 自治医大小児科後期研修の魅力

2A病棟
箕浦佑佳 先生

自治医科大学とちぎ子ども医療センター２A 病棟には、感染症をはじめ、腎・泌尿器疾患、神経疾患、消化器疾患、内分泌疾患など様々な患者さんが検査や治療のために入院してきます。食物アレルギーのある患者さんが経口食物負荷試験を行うために日帰り入院することもよくあります。小児科専門医を取得するに当たって必要な common disease はもちろん、普段はあまり耳にすることがないような専門性の高い稀少疾患まで、幅広く経験することができる環境です。現在、後期研修４年目になりますが、右も左も分からずおろおろしていた１年目の最初に比べると、不安ながらも自分で前を見て一歩踏み出せるようになってきました。１人前になるにはまだまだ未熟ですが、小股ながら成長できているのではないかな、と思っています。プレゼンテーションを行う機会が多いことも当院の特徴の一つです。入局当初はセリフを作っておかないと緊張してうまくプレゼンできませんでしたが、回数を重ねるうちに少しずつ慣れてきて、キーワードだけメモしておけば大筋の説明はできるようになりました。今の課題は、カルテ操作をしながら必要十分な情報や画像をスムーズに提示し、かつ適切な説明もすることです。マルチタスクが苦手な私にはまだまだ修行が必要です。

小児科医は、患児とはもちろん、ご家族とのコミュニケーションもとても大切です。主治医を任されるようになってからは、やりがいと共に大きな責任を伴います。自分一人では解決できない問題にぶつかることもあり、ペアの先生、チームの先生方に相談しながら治療方針を考えることで誤った方向に進まずに済むことが多いです。後期研修を行う環境として、教育・指導面の充実は表面的には分かりにくいと思いますが、実際に身を置くと、各分野の専門家がおり、相談しやすい環境にあるということは、非常に恵まれていると感じます。ぜひこの感覚を一緒に味わってほしいです。お待ちしています。

4A病棟
古屋開土 先生

4A 病棟は、血液・腫瘍班、循環器班、神経班の専門班に分かれ、主に慢性期の患者さんの診療にあたります。血液・腫瘍班では白血病をはじめとした血液疾患、神経芽腫や腎芽腫などの小児固形腫瘍はもちろん、全身性エリテマトーデスや若年性特発性関節炎などの自己免疫疾患の治療も行っています。

循環器班では、先天性心疾患を中心に心臓カテーテル検査やカテーテル治療、心不全管理などを行います。必要に応じて当院の小児心臓血管外科と連携しながら、診療を行っています。

神経班では、難治性てんかん、先天性代謝疾患、神経筋疾患などの患者さんを診療しています。特に代謝疾患や神経筋疾患については、最新の薬剤や遺伝子治療を含め、最先端の医療に関わることができます。

私は、血液腫瘍に興味があったため、後期研修の３年目は血液・腫瘍班を多くローテーションさせていただきました。抗がん剤や骨髄移植を含めた治療・全身管理は専門性が高く、分野自体として希少疾患も多いため勉強することは多いですが、子供たちと関わりながらの日々の診療はとても楽しく、やりがいを感じます。また、長期入院の方が多いため、本人やご家族へ病状や治療をこまめに丁寧に説明すること、良い関係性を構築することの重要性を認識できたのも大きな学びでした。

様々な分野を幅広く経験したうえで、自分の興味のある分野についてはさらに学ぶこともできる環境がこのこども医療センターにはあります。スキルアップはもちろん、きっと自分が「面白い」と思えることに出会えると思いますので、是非研修しに来てください。

NICU
宮崎悠夏 先生

新生児集中治療部は、総合周産期母子医療センターの小児科部門として、栃木県の新生児医療の一角を担っています。入院する新生児の疾患は、早産児、低出生体重児、先天性心疾患、小児外科疾患や脳外科疾患など多岐にわたり、様々な症例を経験することができます。

後期研修で NICU をローテートする際は、最初は指導医とペアで診療を行います。新生児蘇生法、新生児の採血や血管確保、気管挿管、超音波検査などの初期研修では経験しなかった手技や、新しく身につけるべき知識がたくさんありますが、1 対 1 で丁寧な指導を受けながら経験を積むことができます。しばらく指導医とペアでの診療を経験した後には、主治医としての研修が始まります。他科と連携しながらの治療方針決定や、ご家族との関係構築、退院後の環境調整など、難しいことも多いですが、医師として重要な経験や責任感を学ぶことができ、非常にやりがいを感じます。もちろん、困ったときは上級医に相談できるので、安心して診療にあたることができます。急性期の対応も多く、緊張感のある場面は多々ありますが、上級医やスタッフと協力して一つ一つ対応することで、小児科専門医になるために必要な知識や技術、考え方を身につけることができます。また、何より、自分が出生児から関わった赤ちゃんが、様々な困難を乗り越え、日に日に大きくなって元気に退院していく姿は、想像以上の喜びを与えてくれます。これから入局される皆さんとも、赤ちゃんを育んでいく喜び、やりがいを、ぜひ一緒に味わえればと思います。

PICU
若江恵三 先生

自治医科大学とちぎ子ども医療センターには栃木県内唯一の小児集中治療室 (PICU) があります。また、県内で唯一の先天性心疾患の手術を行う施設であり、ECMO 管理も行っています。当院 PICU では、先天性心疾患の管理だけではなく、心筋炎による心不全、気管支喘息や細気管支炎による呼吸不全、急性脳症やてんかん重積状態などの小児神経疾患、小児内分泌疾患、重症な感染症、熱傷、外傷など集中治療が必要な患者様に対して高度な医療を行います。集中治療にあたりその疾患ごとの治療だけではなく、人工呼吸器、持続人工濾過透析、鎮静鎮痛管理、中心静脈路の確保など一般病棟で経験することができない多くの知識と技術を学ぶことができます。

当院小児科では 2019 年から希望すれば後期研修期間内に PICU を研修することができます。私は医師 9 年目ですが後期研修 3 年目の時に PICU で研修を行いました。現在も PICU に在籍し、幅広い治療、管理、技術を再度学ばせていただいているところです。PICU では麻酔科の先生が中心となり、一から管理・手技を教わることができ、また PICU のスタッフの皆さんはとても親切で優しく接してくれるためとても働きやすい環境です。PICU で研修することで小児科医としてさらに成長ができると考えます。私たちは皆様をお待ちしています。ぜひ、とちぎ子ども医療センターで一緒に働きましょう。

▣ 新スタッフ紹介

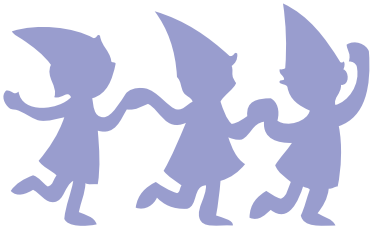
窪田那々子 先生

今年度の４月から小児科に入局しました。S1 の窪田那々子と申します。出身は東京です。元々、全身を診られる医師を目指して、初期研修から自治医科大学附属病院で勤務しました。必修の小児科ローテーションの際に、小児科の扱う分野の広さの他に、専門性も重要であると体感しました。全身を診られるだけでなく、自分も何か専門性を持ちたいと思い始めました。入局先を考える上で、研修中の、専門班関係なく各チームの先生方に熱心にご指導頂いた環境がとても恵まれていると感じました。また、今後、専門性を決める上でもとても参考になると思い、入局しました。現在も、チームの先生方の優しく熱いご指導のもと、日々の診療や、患者さんやご家族に合わせたサポートの形などを学んでいます。時折、多忙な時もありますが、臨床を幅広く扱えて、小児科医として日々楽しく働いています。是非一度当院に見学にいらして下さい！お待ちしています！！

栗原良輔 先生

４月から小児科医として働き始めました、栗原と申します。研修医の頃は全身が診られる医師になりたいと思い総合診療科と小児科で迷っていましたが、最後は子供たちの可愛さあって小児科に決めました。どこの診療科に行っても大変な時はあります。私自身も今現在、学ぶことばかりでへとへとになる日々ですが、患者さんに会うことで毎日癒されています。そのような診療科はほかにはないと思っています。

現在は、小児科内のさまざまな専門班をローテートしながら学ばせていただいています。３か月ごとに環境が変わり、新しい症例を経験し、そのたびに知らないことやわからないことに直面しますが、どの専門班も熱心に指導してくださる先生ばかりでとても勉強になっています。また、科内に様々な専門班がそろっており、困ったときに気軽に相談できる環境が整っている点も、日々の診療を通して感じた魅力の一つです。これらは実際に見てみないとわからないものだと思いますので、ぜひ見学に来て雰囲気を感じてみてください！

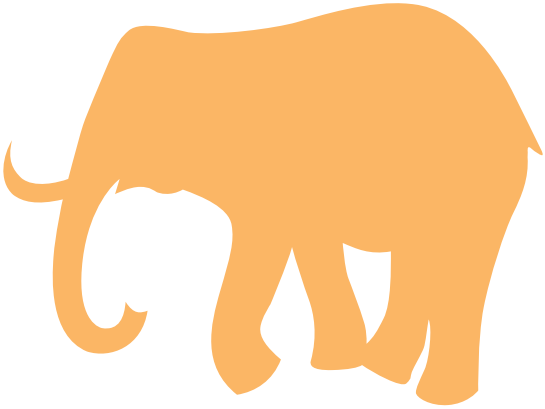


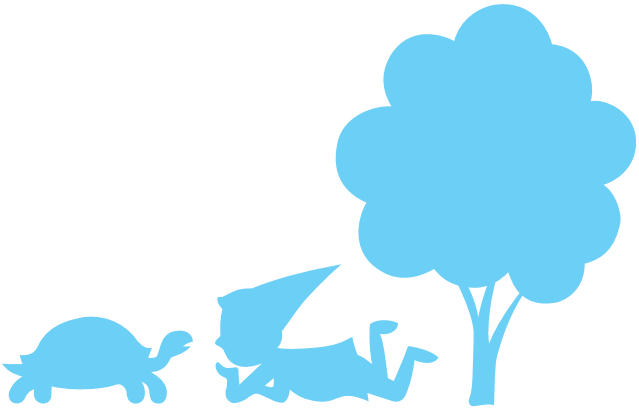
関山雄太 先生

４月より入局しました専攻医１年目の関山雄太と申します。よろしくお願いいたします。私は栃木県出身で、自治医大病院で産まれました。自分の産まれた病院で働くことになり、勝手ながら縁を感じています。学生時代から子供の成長を共に見守ることができる小児科に魅力を感じ小児科医を選びました。
自治医大小児科は県内外からたくさんの子供達が来院します。症例数も豊富で急性期から慢性期まで様々な疾患の子供達が入院しているため、充実した研修をすることができます。個人的には子ども医療センターの内装や外観がとても気に入っており、ここで研修したいと思った理由の一つです。毎年季節ごとにボランティアの方に植栽を植えていただいており、センターの周りはとても華やかです。またクリスマスの時期にはイルミネーションが始まるため心が癒されます。
初期研修・後期研修共に随時受け付けていますので興味があれば是非見学に来て実際の雰囲気を感じてもらえると嬉しいです。

松井亮介 先生

2025 年 4 月に入局した松井と申します。昨年度まで日本医科大学付属病院で勤務していました。医師 10 年目になり、小児循環器を専門としてサブスペシャリティの研鑽を積んでいるところです。自治医大は大学病院としての機能と、子ども病院としての機能をもっています。大学病院として教育や研究も積極的に行っている一方で、子ども病院として、その症例数やひたむきな同僚達に刺激される毎日です。様々な大学からスタッフが集まっている医局のため、小児科内の垣根が低いのはもちろん、外科系診療科や PICU とも非常に連携がとりやすく、また看護師やほかコメディカルとも一丸となって子どもたちを診ています。規模の大きい医局でありながら持続可能な体制をめざし、関連病院との連携や時短や育休などのニーズにきちんと応えている点も魅力です。栃木に今まで縁がなかったという方も多いと思いますが、これを機にぜひ病院へ足を運んでみてください。





▣ 小児科医と育児と私

結婚・出産・子育てなどのライフイベントに対応した支援があります。
産休・育休はもちろん、育児短時間勤務制度、部分短時間勤務などが充実しており、働きやすい環境作りに努めています。

川田 雅子 先生（神経）

私は産休・育休を 1 年間いただき、時短勤務で復帰して約 4 年になります。ライフワークバランスの考え方やサポート体制などは皆違いますが、それぞれの考えや状況に柔軟に対応してくれるこの医局に大変感謝しています。また、快く助けてくれる多くの仲間のおかげで安心して育児ができて幸せです。この職場の温かさを感じにぜひ一度いらしてください！

小林 瑞 先生（神経）

私の場合は常勤時に子どもの病気のコントロールが悪く退職を考えたとき、すぐに時短勤務にしていただきました。それから数年、気付けば息子も元気な日のほうが多くなり、私も仕事を続けています。あきらめなくてよかったです。家族も仕事もどちらも大切にしながら働ける職場です。ぜひ一度見学にいらしてください。

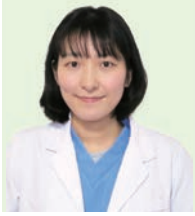
横溝 亜希子 先生（循環器）

短時間勤務を利用しながら、2人の子育てをしています。「時短でもスキルアップを」と指導していただける小児科の環境は、非常に恵まれています。循環器班にいますが、周囲のサポート、理解があり、家庭に重きをおいた働き方をさせていただいています。いろいろな働き方をしているママさんがいて、とても参考になると思います。

新島 瞳 先生（血液）

育休後、短時間勤務で復帰し、その後フルタイムへとその時々の育児の状況で働き方を変えさせて頂きました。日々の業務だけでなく子供の体調不良や園行事など、周りの先生方に支えてもらいながらなんとかこなしています。育児、仕事のバランスは難しいですが、子育てしながらキャリアを継続できるありがたい環境だと思います。

岡田 優子 先生（消化器）



産休中に専門医を取得し、現在時短勤務で勤務させていただいています。当院は敷地に近い場所に保育園があり、勤務形態も選択できるため、とても育児環境として恵まれていると思います。色々な先生方に助けていただきながらなんとか勤務を続けております。経験できる症例も多く、毎日学びの連続です。一緒に頑張りましょう。

堀口 明由美 先生（神経）

私は入局直後に産休に入ることになり、すごく不安だったのですが自治医大の先生方が優しく接してくださり復帰してとても楽しく働かせてもらっています。今は時短勤務から大学院2年生になり第二子の出産も控えています。つわりの時もたくさんの先生にご配慮いただいて本当にありがたかったです。自治医大には子育て先輩ママがたくさんいますので、とても心強いです！

丸 智美 先生（腎臓）

私は小児科入局後に2回の産育休を頂き、2回目の産休中に専門医を取得しました。育児の局面によって働き方を悩んでしまいますが、常によりよく働けるように配慮を頂いています。指導してくださる先生方、一緒に並んで働いてくださる先生方に感謝しかありません。ありがたい環境の中で、育児の経験を生かしつつ研鑽を重ねていきたいと思います。

臼井 みほ 先生（神経）

1歳、6歳の育児に日々格闘しながら時短勤務させていただいています。いつも先生方やスタッフの皆さんに支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。自治医大には、育児と仕事を両立してキャリアを積まれた先生方、そして困った時にはそっと声をかけてくださる先生方がたくさんいらっしゃいます。ぜひ一度見学にいらしてください。

新米パパの育児

若江 恵三先生（神経）

一昨年10月に第一子となる娘が産まれました。周りの先生方のサポートもあり、出産に立ち会うことができました。知識として子どもの成長はわかっていたつもりでしたが、実際の育児はかなり大変だと実感しています。妊娠中から現在の育児まで、妻のがんばりには頭が上がりません。現在も小児科医として過ごせているのは妻のおかげです。これからも娘の成長を見ることで、父として、小児神経科医として成長したいと考えています。

▣ 若手 Dr. のとある１日

霜田　かれん 先生

小児科専攻医3年目の霜田と申します。私は当院で初期研修を行い、小児科の先生方の熱意と真摯な姿勢に刺激を受け、引き続き後期研修に進むことを決めました。専門医取得に向けて一昨年度は急性期病棟、慢性期病棟を半年ずつローテーションしました。子ども医療センターは各専門班が充実しており、PICUも備えているため症例はとても豊富です。緊急入院や症例によっては忙しい日もありますが、優しく指導熱心な先生方や賑やかな同期、後輩に囲まれて楽しい日々を過ごしています！

6時45分	起床、準備
8時00分	出勤
8時15分	週3回新患カンファ、抄読会など
9時00分	NICUで当直の先生から申し送り、チームチェックで1日の方針の確認
9時45分	診察、採血など（NICUでは赤ちゃんのミルクの時間に合わせて処置をします）
11時00分	NICUカンファ、GCUカンファ、産科新生児回診
12時00分	お昼ごはん
13時00分	病棟業務、時折1か月検診などの外来
17時00分	当直の先生への申し送り
17時30分	帰宅
	日によって医局に少し残って勉強したり、自炊したり、たまに友人や同期と宇都宮や小山にごはんに出かけたりしています
24時00分	就寝

休日は家でゆっくり過ごしたり、連休は友人と旅行したり（去年は四国、軽井沢、沖縄、横浜、大阪、京都など）、最近はコロナも落ち着いてきたので、週末に東京に出かけて買い物や久々の友人とのご飯を楽しんでいます。
時折、実家の群馬に帰って家族や猫に癒されたりと次の１週間に向けたリフレッシュをしています。休日の当直や当番の日もありますが、連休や夏休み、春休みもあるため ON、OFF しっかりできています。

▣ 専攻医勉強会

専攻医プログラムの一環である専攻医勉強会を年３回開催しています。第１回目は専門班の先生からの講義、第２・３回では経験した症例や勉強したテーマについて専攻医が発表します。後期研修１年目については当直前クルズスがあり、救急対応について各分野の先生から講義を受け、当直にスムーズに入れるよう準備を行っています。
また 2023 年度から専攻医向けに毎月若手勉強会を開催しています。小児輸液などについての講義、けいれん対応についてのシミュレーション、当直で困った症例の振り返りなど勉強会の内容は様々で、専攻医のニーズに応えられるよう取り組んでいます。

▣ 関連研修病院

芳賀赤十字病院

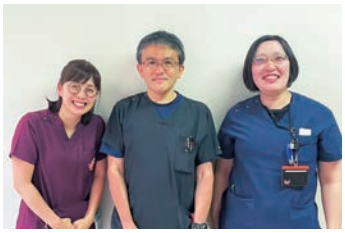
「学生時代、初期研修医時代に小児医療に興味を持ち、小児科専攻医をめざすみなさんへ」「今」自分の小児科医としての将来像が明確になっている方は少ないはずです。では、どうしたらいいのでしょうか。専攻医の間に多くの経験をして、自分に合った将来像を見つけられる環境に自分を置いてみるということですね。自治医科大学とちぎ子ども医療センターは、大学病院併設型であり高度先進医療含む多くの経験が可能です。そこに一般小児科診療を中心に展開する当院での研修をすることで、他の施設群では経験できない小児疾患を網羅的に経験することができます。当院は、栃木県県東地区にあり新生児(未熟児をふくむ)から思春期に至るすべての年齢層の、すべての疾患を診療対象にしており、当地域のほぼすべての小児入院患者と関わります。「小児医療連携の会」を主催し、教育や行政とも積極的に関わっています。この活動はこども家庭庁の政策を先取りしており、国や地方行政が企画し将来実現していく小児医療を、「今」体感することができます。日本小児科学会専門医はもちろん、日本アレルギー学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本小児神経学会専門医取得に関わる研修も可能です。
新型コロナウイルス感染の影響がなくなり、非常に忙しい日々を過ごしていますが、自治医科大学小児科専攻医プログラムに参加し、そしてぜひ当院においでいただき、大切なこどもたちを守っていきましょう。

新小山市民病院

新小山市民病院は、小山市の南部に位置する地域密着型の急性期中核病院です。令和6年度には9名の小児科医が在籍し、地域の開業医と連携しながら小児二次医療を担当しています。外来診療では、低身長や体重増加不良、不登校、起立性調節障害、感染症などの様々な患者さんに対応し、病棟診療では毎日のカンファレンスで治療方針を共有しながら、呼吸器感染症、気管支喘息発作、尿路感染症、ネフローゼ症候群、川崎病、てんかんなど多岐にわたる疾患を扱っています。さらに、日帰りの食物アレルギー負荷試験や検査入院も行っており、乳幼児健康診査や予防接種にも積極的に取り組んでいます。
専攻医は、指導医の厚いサポートのもとで週に2回の外来診療を担当する他、病棟では主治医として1人の患者さんを初診から退院後まで一貫して診療する経験を積むことができます。このような経験を通じて、幅広い疾患に対応するスキルや、患者さんとの信頼関係を築く力を養うことができます。
自治医科大学小児科専攻医プログラムの一環として、当院での研修に参加することで、日々医師としての成長を実感しながら、将来のキャリアに必要な実践的なスキルを身につけることができます。当院は、地域医療に貢献しながら、専攻医の育成にも力を入れています。ぜひ当院での研修にいらしてください。

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）うつのみや病院

当院は2022年度から小児科専攻医の研修病院に加わりました。当院は、県庁所在地のある宇都宮医療圏の二次救急・病院群輪番制病院の一つであり、重要な役割を果たしています。小児科は常勤医3名体制で、外来・入院診療、救急診療の他に予防接種や乳児健診などにも対応しています。小児科専攻医としては、感染症をはじめ、発疹性疾患、気管支喘息、食物アレルギー、けいれん性疾患、川崎病、肥満・低身長、起立性調節障害、健診・検診の異常など、幅広い対応を経験でき、地域において小児やその保護者を支えていく仕組みや地域内の連携（診療所、園、学校、保健所など）を学ぶことができます。大学病院とは異なる形で小児科専門医として重要なスキルを身につけることが可能であり、我々がしっかりサポートして研修できるような体制づくりを心掛けています。ぜひ当院での研修をご検討下さい。



国際医療福祉大学病院

当院は、栃木県北部の那須塩原市にある総合病院です。那須塩原市は自然豊かで温泉も豊富、四季折々の顔があり、一年を通して観光地として賑わっています。小児科では、一般小児担当医とNICU担当医、小児外科医や小児感染症専門の臨床検査医の計10名ほどが集まり、毎朝カンファレンスを行っています。症例は、小児のcommon disease（急性気管支炎、尿路感染症、けいれん群発等）に加え、新生児疾患（例：早産児、新生児一過性多呼吸）、NCPRなど一通りの症例・手技を経験できます。心身障碍児の診療機会も多く、また、心臓や神経発達、腎臓・内分泌・泌尿器などの専門外来もあり、専門的な症例についても学ぶ機会は豊富です。当直は月4-5回で、県北小児医療の中心となっています。スタッフは皆優しく、廊下では挨拶の声が聞こえ、とても良い雰囲気だと感じます。症例は市中病院らしさがある一方、大学病院として看護師・薬剤師・理学療法士・臨床心理士などの優秀なメディカルスタッフが揃い、また、放射線科・耳鼻科などの専門科への相談も気軽に行うことができます。特に小児外科の先生が常勤し、超音波や外科系疾患についてのアドバイス、腸重積の整復や胃瘻・気管切開の管理、などの手技・診療も経験することができます。国際医療福祉大学医学部学生や初期研修医も常にローテートし、一緒に診療しアウトプットする中で自分の足りない部分にも気づくことができます。那須塩原の四季のように穏やかな雰囲気の中で小児科医としてかけがえのない経験ができる当院での研修、いかがですか？

▣ 充実した大学院生活

倉根 超先生

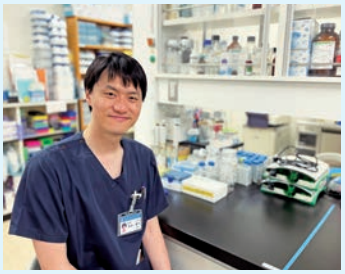
臨床の現場を経験すればするほど、解明されていない事象に疑問を抱くことが増え、テーマを決めて解明に没頭したいと思うようになりました。私は医師7年目で大学院博士課程に進学しました。現在は神経発達症に関連した研究をしています。頭の中の見えない病態や現象をいかに可視化し客観的にみていくかを課題に研究を行っています。進学後の生活に不安がなかった訳ではありませんが、多岐にわたる先生方のご指導のもと、充実した日々を送っています。大学院も気になる方がいらっしゃいましたら、気兼ねなく声をかけてください。お待ちしています。

甲州 希理先生

神経難病の患者さんを担当する中で、臨床の経験だけではわからない疾患概念や病態理解、治療方針の決定方法があると感じました。研究経験がなく、不安もありましたが、妊娠・出産も重なり、子育て中のキャリアアップも考えて入学を決めました。現在は経験豊富な指導医の先生方やスタッフのサポートを受けながら、研究を行っています。オンライン授業が多く、子育て世代にはありがたい環境です。臨床から離れるのは不安もありますが、新たな視点を得られる貴重な機会だと感じます。気になる方はぜひお声かけください。

永井 康平先生

私は今年で医師14年目となり、小児科の中でも小児神経を専門分野としております。小児神経分野においては治療法のない疾患や退行もある疾患が多く、臨床において悪くなっていくのを何もできずみているだけで無力感を感じていました。患者さんの少しでも役に立つような研究ができればと考え、大学院に進学しました。博士課程の4年間のうち、1年目は臨床業務に従事することとなっています。現在、大学院2年目で自治医大小児科は研究において指導医はもちろん、研究補助員の方もたくさんいらっしゃるので、研究するには最高の環境だと思っています。ぜひ一度見学にいらしてください。お待ちしています。



堀口 明由美先生

自治医科大学にきて、身近に研究がある環境になり自分も研究をしてみたいと思うようになりました。基礎研究から臨床研究まで幅広い点も魅力的です。経験豊富な指導医の先生方にご指導いただけ、貴重な機会に恵まれていると日々感じております。私生活では出産や子育てがありましたが、ご配慮いただき本当に感謝しております。小児科では大学院の先輩方がたくさんいますので心強いです。まだ初学者ですので、これからたくさん勉強していけたらなと思っています。ぜひ大学院進学を考えていらっしゃる方がいたら一緒に研究しましょう！

▣ 小児科研修プログラム

初期研修

専攻医（シニアレジデント）1〜3年目（S1〜S3）
病棟診療、救急外来、NICU、PICU、関連病院　など

病院助教
専門医試験
専門分野選択
大学院入学

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	2A			血液			NICU			循環器		
S2	関連病院											
S3	2A			神経			2A					

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	2A			循環器			血液			NICU		
S2	関連病院											
S3	血液			NICU			外来			血液		

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
S1	神経			2A			NICU			循環器		
S2	関連病院											
S3	循環器			NICU								

実際の後期研修医のローテート例

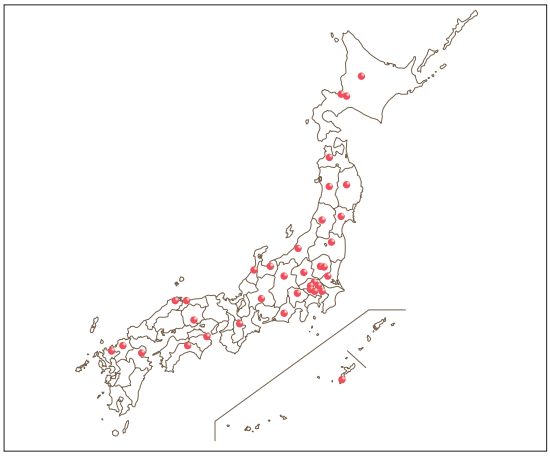
後期研修は基本的には 2 年間大学内、1 年間（S2 または S3）外病院での研修を行います。
大学内では各専門班を 2-3 ヶ月ごとにローテートし、満遍なく症例を集めることができます。
S1 は各病棟にほぼ同じ期間ずつ勤務しますが、大学勤務 2 年目については、希望の専門班が決まっていれば長く回ることもできます。

▣ 外勤先一覧

現在の外勤で行ける病院の一覧です。平日の当直、休日の日当直以外にも平日の 1 か月健診、土曜の午前中の一般外来など幅広く外勤に行っています。

- ●外来　日光市民病院、協和中央病院、黒須病院、栃木県立リハビリテーションセンター
- ●（日）当直　なす療育園、国際医療福祉大学病院、新小山市民病院、古河赤十字病院
  JCHO うつのみや病院、芳賀赤十字病院
- ● 1 か月健診　おおひらレディースクリニック、さくら産院
- ●献血車

▣ 小児科スタッフの出身大学



自治医科大学は、卒業生が大学に残りません。このため、講座スタッフ・レジデントは全国の各大学からメンバーが集まっていることも特徴の一つです。
出身大学：秋田大学、旭川医科大学、岩手医科大学、大分大学、岡山大学、金沢大学、北里大学、岐阜大学、杏林大学、群馬大学、高知大学、埼玉医科大学、佐賀大学、札幌医科大学、産業医科大学、自治医科大学、島根大学、順天堂大学、昭和大学、信州大学、筑波大学、帝京大学、東海大学、東京医科大学、東京女子医科大学、東邦大学、東北大学、徳島大学、獨協医科大学、鳥取大学、富山大学、奈良県立医科大学、新潟大学、日本大学、浜松医科大学、弘前大学、福井大学、福島県立医科大学、北海道大学、山形大学、山梨大学、琉球大学、日本医科大学

▣ 学術活動

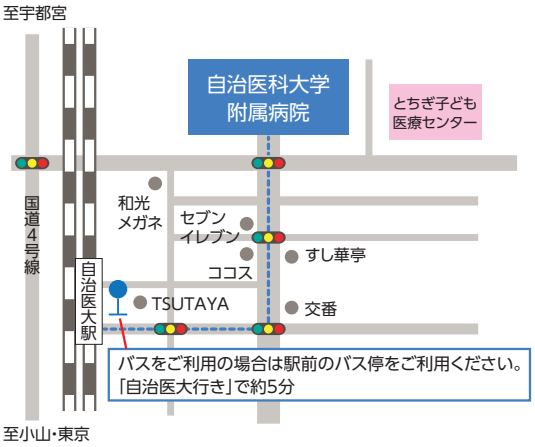
小児科学会栃木県地方会（年３回）を始め、様々な学会・研究会に初期研修１年目から発表する機会があります。上級医、各専門班の指導医が丁寧に指導し、発表後は論文指導もします。
また、日々の診療を通して得た病態の疑問を、隣接する大学の研究施設で解き明かすことができ、小児科の physician scientist を目指す人にとっては、とても恵まれた環境です。

小児難治性疾患の新たな治療法開発に向けて 日本の小児遺伝子治療の中核施設！

遺伝子治療を受けた患者家族を追ったドキュメンタリーがテレビ放送されました。また、同時に映画化された「奇跡の子どもたち」は、科学技術映画祭にて内閣総理大臣賞を受賞しました。

私達は次世代の子どもたちのための治療法開発を進めています。
自治医科大学は（遺伝子治療）、京都大学（iPS）、成育医療センター（再生）と並び次世代医療を目指した再生・細胞医療・遺伝子治療研究開発拠点（NCGT: Next-generation Cell and Gene Therapy）となっており、小児科はその臨床の中核として期待されています。
ほとんどが生涯寝たきりとなる小児神経難病の一つ「芳香族L アミノ酸脱炭酸酵素（以下AADC）欠損症」。遺伝子異常が原因のこの病気に対し、当教室では2015年から遺伝子治療を臨床研究として、日本・海外から治療を希望された方８名に行い、全例で運動能力が改善しました。AADCは重要な神経伝達物質のドパミンやカテコラミン、セロトニンの合成に必須の酵素で、AADC欠損症はこれらの神経伝達物質が不足し発達が障害されます。根本治療は、正常なAADC遺伝子を組み込んだベクターを脳神経外科手術で被殻に注入する遺伝子治療です。結果は良好で、寝たきりだった方が歩行器や車椅子歩行が可能になる、胃瘻で栄養を摂取していた方が口から食べられるようになる、苦しいジストニア発作が消失する、など患者さんとご家族のQOLが改善し、笑顔で生活できるようになっています。治療から５年以上経っても、治療効果は持続しており、生涯効果が期待できます。
この遺伝子治療を今後も患者さんに届けるため、難治性てんかんなどで発症するGLUT1欠損症では医師主導治験を実施しており、Nieman Pick病C型、OTC欠損症などいくつかの病気でも遺伝子治療を開発し、臨床応用に向け準備を進めており、ここは日本の小児遺伝子治療開発の中心となっています。
またミトコンドリア病の治療法開発、小児がん経験者の生活習慣病の病態解析と予防、小児COVID-19登録及びMIS-C全国調査共同研究など、新しい治療を目指した研究が多数行われています。

▣ 子ども医療センターへのアクセス



JR 宇都宮線「自治医大駅」下車、徒歩15 分または接続バスで 5 分
(東北新幹線を利用の場合は「東京方面からは小山駅」、「東北方面からは宇都宮駅」で下車し、宇都宮線の普通電車に乗り換え)

■自治医科大学　小児科学講座

■〒 329-0498　栃木県下野市薬師寺 3311-1
■ TEL: 0285-58-7366、FAX: 0285-44-6123
■ https://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/index.html　→
■お問い合わせ：jmsped@jichi.ac.jp
■見学をご希望の際には、上記連絡先、もしくは卒後臨床研修センターにお問い合わせください。

公式 Facebook ページ　　公式X(旧:Twitter)アカウント